

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590800019
法人名	医療法人 隆徳会
事業所名	グループホーム あさひ
所在地	宮崎県西都市旭1丁目50番地 (電 話) 0983-42-1124
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り 2階建ての 階 ~ 1 階部分
------	----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000	円	その他の経費(月額)	1,000	円	
敷金	有()円		☒ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ☒ 無		有りの場合 償却の有無	無		
食材料費	朝食	200	円	昼食	250	円
	夕食	450	円	おやつ	200	円
	または1日当たり					円

(4)利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数		7 名	男性	4 名	女性	3 名
要介護1		1	名	要介護2	1	名
要介護3		2	名	要介護4	3	名
要介護5		0	名	要支援2	0	名
年齢	平均	84, 0 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鶴田病院 鶴田クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街の中にあり、広々とした日本家屋でそれぞれの居室も広く明るい環境である。職員は利用者の笑顔を見るのが好きと日々のケアに努めている。母体法人の医療施設と連携体制が整っている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々のケアのために全職員で自己評価に取り組み、今回の外部評価に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年のホーム開所から2か月に1回開催しており、メンバーは家族や市介護担当課、包括支援センター、民生委員である。これまではホームの現状報告が主であったが、現段階は地域との関係づくりについて検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の相談や苦情等を受けとめ運営に反映させている。さらに外部の相談苦情受付窓口も家族に説明し、意見や苦情を出しやすくする環境を整えてほしい。また、ホーム便りの発行や家族会を作ったりして家族の意見を取り入れる工夫をしてほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議のメンバーである民生委員を通して地域との交流促進に努めている。ボランティアの受け入れも行っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは昨年6月に開所しており、利用者の生活スタイルを大切にして「安全で楽しく」を軸にした理念を、管理者と職員で作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念をミーティングや日々のケアで確認共有し、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーである民生委員等を通して、地域との交流促進に努めている。ボランティアの受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回初めてであるが、日々のケアのために全職員で自己評価に取り組み外部評価に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年のホーム開所から2か月に1回、家族や市介護担当課、包括支援センター、民生委員のメンバーで開催している。これまではホームの現状報告が主であるが、今後はさらに地域の関係づくりを進めようと意見、助言を求めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ相談し合える関係をつくり、ケアの推進に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や随時に、利用者の暮らしや受療状況、金銭管理等報告をしている。ホーム便りの発行も検討中である。	○	ホーム便りの発行や家族会を立ち上げたりして、家族の意見を取り入れる工夫に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から管理者や職員に直接相談や要望があり、職員間で共有し運営に反映させている。家族会を設けることも検討している。		外部の苦情相談窓口についても、重要事項説明書等に明示し家族等に伝えてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動であり、異動による負担が利用者に生じないように管理者は配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加しているが、公務でなく自己研修の形態である。	○	運営者は、パートを含めての職員育成教育が、勤務時間内に実施されるよう更なる工夫をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に参加し、また市内の事業所とも研鑽や、交流・連携し、ケアの質向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が自宅の生活から早く新しい環境になじみ、笑顔になれるようにと、職員は家族と相談しながら対応している。入居後も家族が気軽に宿泊できることも説明し対応している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、元農家だった利用者から芋の栽培法や料理の仕方を教えてもらうなど、利用者それぞれの生活や人生体験から学ぶことが多く、学んだことを日々のケアに活かしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々のケアの中から利用者の思いや希望などを、本人の話や表情、家族等から把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や職員が常々本人や家族の要望や意見等を聞き、計画に入れ、計画作成後は家族の確認を得ている。管理者や職員は家族の状況や事情を理解出来るように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた時は、変化対応後に計画の見直しを行っており、状態変化の少ない場合は6か月毎に介護計画の見直しをしている。いずれの場合も家族の意向を確認している。	○	状態の変化が無い場合も1か月に1回の介護計画の見直しが望ましいが、管理者と介護計画作成者が同一人であり、さらに日々のケアも行っている。介護計画作成者が別個であれば介護計画の見直しや介護の予測が早まると思われるので検討してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等からの要望が増加しているが、対応に努めている。介護タクシーや介護ヘルパー等の紹介や家族等の面会時の宿泊希望も受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医師に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの利用開始時にも説明がされており、終末期の状況の変化に応じて家族等と話し合いながら対応している。医療との連携体制も出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人一人の誇りやプライバシーを尊重しながら、笑顔が見られるように時にはスキンシップ等も交えながらコミュニケーションしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のケアの中からやりたいことを汲み取り、その人なりの楽しみをもった時間の過ごし方となるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何食べる？」などと利用者の好みや食欲に応じて、旬の物を使い、時には得意料理の腕を振るってもらうことで食欲増進に繋がったりしている。職員それぞれが同じ卓で同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を楽しんでもらえるよう安全見守りしながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々張り合いや喜びのある過ごし方となるよう、ひとり一人の生活歴を活かしての庭木の剪定など、役割感をもってもらうなど支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの床屋に行くのを楽しみにされている利用者にはタクシーの世話や、その他近くの公園に散歩に出たりしている。		散歩や食材等の買い物なども含めた外出の機会が更に増えるよう、ホームの体制を工夫してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や管理者は鍵をかける弊害を理解しながら離所防止や交通事故防止のために、敷地外へは出れないよう施錠しているが、午前9時から17時までは玄関を開放しているので庭で過ごすことができる。	○	外出支援と共に運営推進会議でも検討されている。利用者の外出が、地域を開放された安全な地域へと変えていく力をもっているとの事例等も参考にして、鍵をかけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連絡や、消防機器の定期的な点検、隣接駐車場への避難場所の確認を行っており、地域との連携推進については運営推進会議で検討中である。	○	火災以外の災害を含め、夜間時の対応のための職員の訓練と、地域の協力が得られるよう働きかけを続けてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量の確保など配慮されている。栄養士による専門的な指導助言は時間調整の都合で受けていないが、スタッフに調理師がいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした日本家屋で回廊も広く馴染みやすい生活空間であり、適度な明るさで、利用者は穏やかな表情をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものが置かれた居室である。		